

草の根通信

Vol.82 (2015年2月12日発行)



別府温泉

P12 事務局だより

- ・CIE-USの理事長にボイコ氏が就任
- ・土佐史談、「中浜万次郎」を特集

P12 協賛企業一覧

平成26年度寄附協賛企業一覧



特集

第25回 日米草の根交流サミット・おおいた大会

P10

アメリカの鯨捕り、ジョン・マン

寄稿 櫻井敬人

P08

おおいた大会トピック

- ・大分県立美術館(OPAM)を見学
- ・「アマチ収容所保存会」の生徒達が参加

P05

キーパーソン／地域分科会紹介

- 大分市・臼杵市・津久見市・佐伯市・竹田市・日田市
- 中津市・宇佐市・豊後高田市・杵築市・別府市

P04

大会スケジュール／5つのローカル・ツアー

P03

大会へ向けたご挨拶／実行委員会名簿

- 広瀬勝貞 大分県知事(実行委員会顧問)
- 姫野清高 大分県商工会議所連合会・会長(実行委員会会長)

最近、地球って小さくなった？

ANA HANEDA

世界10都市大增便!

ANAの羽田国際線がついに世界10都市大增便! 羽田から海外、がいよいよ常識になってきました。行きも近い、帰りも近い。これは快適としか言いようがありません。日本のために、あなたのビジネスのために、羽田の国際化、どんどん進みます。

【新規就航都市】	バンクーバー / ハノイ	【アジア】	マニラ / ジャカルタ / バンコク / シンガポール
【ヨーロッパ】	パリ / フランクフルト / ミュンヘン / ロンドン	いよいよ3月30日から	

ANA  Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER 

最高評価「5スター」を2年連続で獲得。
ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。



特集

第25回 日米草の根交流サミット・おおいた大会

第25回日米草の根交流サミット大会は、今年7月に大分県で開催されます。その準備を担う実行委員会が、昨年8月20日に大分市内で設立されました。会長には姫野大分県商工会議所連合会会長が、また顧問に広瀬大分県知事、釘宮大分市長、浜田別府市長が就任。副会長、委員、監事を含め15名の方々が委員会を組織して準備を進めてくださっています。姫野実行委員会会長と、広瀬顧問のメッセージをご紹介します。

知事ご挨拶



広瀬 勝貞

大分県知事
(実行委員会顧問)

この度、第25回日米草の根交流サミット大会が、大分県において開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

大分は、温泉の湧出量、泉源数ともに日本一を誇る「日本一のおんせん県おおいた」です。温泉をはじめ、豊かな自然と歴史、文化、そして海の幸、山の幸に恵まれた人気の観光地で、世界各国から多くの観光客が訪れています。

ぜひ、多くの皆様にご参加いただき、大分の自然や食を堪能し、大分の方々と多く触れ

合っていただきたいと思います。

ジョン万次郎とホワイトフィールド船長が育んだ友情に勝るとも劣らぬ友情が、大分の地で芽生えることを期待しています。

実行委員会会長ご挨拶



姫野 清高

大分県商工会議所連合会
会長(実行委員会会長)

大分県は、緑あふれる山々そしてリアス式の海岸など美しい自然に恵まれています。また、その美しさは、地域毎に異なる魅力にあふれています。

さらに、地域ならではの旬の味覚があふれ、豊かな天然自然に育まれた海の幸、山の幸も豊富であります。是非ともご賞味いただきたいと思いません。

私たちは、皆さんのために、選りすぐりの地域で分科会を開催することとしました。どの地域分科会に参加しても、十分満足いただけることでしょう。

皆さんと大分の地で目にかかることを楽しみにしています。

皆さんと大分の地で目にかかることを楽しみにしています。

第25回日米草の根交流サミット2015・おおいた大会 実行委員会名簿

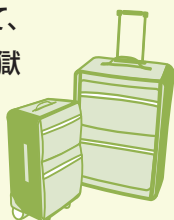
顧問	大分県	知事	広瀬 勝貞
顧問	大分市	市長	釘宮 馨
顧問	別府市	市長	浜田 博
会長	大分県商工会議所連合会	会長	姫野 清高
副会長	大分経済同友会	代表幹事	小倉 義人
副会長	大分経済同友会	代表幹事	福島 知克
副会長	別府商工会議所	会頭	千壽 健夫
委員	大分県議会	議長	近藤 和義
委員	国際ロータリー第2720地区	ガバナー	小山 康直
委員	ライオンズクラブ国際協会337-B地区1R	チェアパーソン	小野 英昭
委員	国際ソロプチミスト大分ー府内	会長	横井 育子
委員	(特非)大学コンソーシアムおおいた	理事長	北野 正剛
委員	(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団	専務理事	照山 龍治
監事	(株)大分銀行	取締役頭取	姫野 昌治
監事	(公社)ツーリズムおおいた	会長	幸重 綱二

おおいた大会スケジュール

7/6 (月)	参加者、米国を出発	
7/7 (火)	大分に到着	別府杉乃井ホテル泊
7/8 (水)	ローカル・ツアー、オープニング式典 & 歓迎レセプション	別府杉乃井ホテル泊
7/9 (木) ~ 7/11 (土)	地域分科会	ホームステイ 3泊
7/12 (日)	大分県立美術館 (OPAM) 見学 クロージング式典 & フェアウェルパーティー	大分オアシスタワーホテル泊
7/13 (月)	大分を出発	

5つのローカルツアー

大分は、温泉をはじめ、豊かな自然と歴史、文化に恵まれた見所の多い観光地。アメリカからの参加者のために、到着した翌日の7月8日午前から午後にかけて、別府の血の池地獄、海地獄、鬼石坊主地獄の見学に加え、5つのローカル・ツアー (オプション) が用意されています。

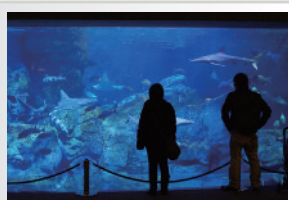


B 大分コース

高崎山でニホンザルの社会構造を学び、水族館「うみたまご」で一息。「大分トイレンナーレ」も見学します。



高崎山自然動物園



水族館「うみたまご」

D 由布院コース

いつも観光客で賑わう由布院。ユニークなショップが並ぶ通りを散策し、金鱗湖も見学します。



金鱗湖



湯の坪街道

A 別府の自然コース

ひょうたん温泉でのランチの後、十文字原から、別府市街を一望します。明礬温泉や志高湖も巡ります。



志高湖



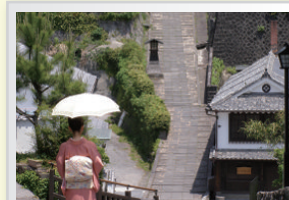
明礬温泉

C 杵築コース

杵築の歴史的町並みを着物に着替えて散策します。武家屋敷や杵築城も見学します。



武家屋敷



酢屋の坂

E 別府の学びコース

温泉だけではない別府の違う側面を学びます。立命館アジア太平洋大学を訪問し、社会福祉法人「太陽の家」の取り組みを見学します。



太陽の家



立命館アジア太平洋大学

地域分科会

Local Session



おおいた大会 キーパーソンと地域の紹介

大分◎

1 大分市 (おおいた)

大分市は、古くから貿易や産業が発展し、東九州最大の経済拠点としての役割を担っています。16世紀には、キリシタン大名 大友宗麟公の庇護を受け、日本におけるキリスト教布教の中心地となり、南蛮文化が花開き、医術・音楽・演劇など西洋文化の発祥の地でもあります。また、別府湾の美しい自然に囲まれ、イルカやセイウチなど様々な海の動物たちの楽しいパフォーマンスで人気のある水族館「うみたまご」、野生のニホンザルの群れを間近に見ることができる「高崎山自然動物園」、「関あじ・関さば」に代表される海の幸など魅力満載です。さらに、今春には、大分県立美術館 (OPAM、8ページ参照) が開館します。「大分が世界に出会う、世界が大分に驚く」のコンセプトのもと世界的美術品が披露されるなど、文化や芸術の活動も盛んです。



Key Person

橋本均さん



大分市は、1990年からアメリカ合衆国テキサス州オースチン市と姉妹提携を締結しており、深い友好関係にあります。ご参加の皆様には、素晴らしい大分市を体感していただきます。是非、皆様のお越しをお待ちしています。

2 臼杵市 (うすき)

臼杵市には約千年前に崖の岩に彫られた仏像の国宝「臼杵石仏」があり多くの参拝者で賑わっております。また市街地では16世紀に造られたお城を中心に、江戸時代に建てられた仏教の寺院や武家屋敷のほか、町屋と呼ばれる商人の家が数多くあり、城跡から見える風景は、まさに江戸時代の古い日本にタイムスリップしたような町並みです。現在の臼杵市は、「みそ」や「しょうゆ」の醸造業が有名ですが、漁業や農業も盛んで、美味しい魚や美味しい野菜が生産されています。そのような理由から日本料理店も多く、美味しい日本料理を求めて市外から多くのお客様が訪れます。



Key Person

小野健介さん



是非みなさんには日本文化を満喫して、楽しい日本の思い出を作ってほしいと思っています。市民とどのような交流ができるか計画中です。お楽しみに。

特集 第25回おおいた大会 (キーパーソン/地域分科会紹介)

3 津久見市(つくみ)

Key Person 二村理菜さん、原尻育史郎さん

津久見市は、リアス式海岸特有の地形とみかん栽培の段々畑が織りなすコントラストが素敵な港町です。セメントの町としても有名で、石灰石の埋蔵量・生産量共に日本有数です。その他、約450年の伝



統を誇る扇子踊りやイルカとの触れ合い体験が出来るなど、魅力いっぱいな町です。私たちは、アメリカからのサミット参加者に、津久見市の自然と文化を楽しんでもらうことを心待ちにしています。



私たちは、皆さんの素敵な出会いと、共に過ごす時間をとても楽しみにしています。一緒に津久見の文化を体験しましょう。

4 佐伯市(さいき)

Key Person 山本徹さん

佐伯市は、2005年に周辺の8か所の町と合併した結果、九州一広い面積の市になりました。古くからの城下町と、山と海と川の町が一緒になったので、様々な景観を楽しむことができることはもちろん、豊富な種類の食材を味わうことができます。真夏の海で思いっきり体を動かし、さわやかな山間の空気に触れ、静かな城下町を散歩してみませんか。日本の夏のあらゆる魅力が、この町の中で満喫出来ることを、お約束します。



この町の人々が、心から皆さまを歓迎することを、一番の楽しみにいらっしゃってください。お待ちしております。

5 竹田市(たけた)

Key Person 羽田清子さん

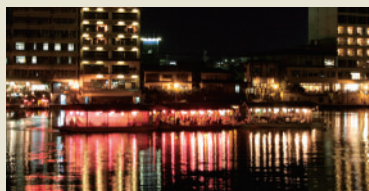
竹田市は大分県の南西部にあり、九州のほぼ中央に位置しています。くじゅう連山や阿蘇山、祖母傾連山などの九州を代表する山々に囲まれており、水と緑があふれる自然豊かな地域です。絶え間なく湧き出る竹田湧水群などの名水、自然と歴史によって育まれてきた郷土料理、さらには日本一の炭酸泉といわれる長湯温泉や開放感あふれる雄大な久住高原が訪れた人々を魅了しています。また、「荒城の月」で有名な岡城址があり、城下町には武家屋敷など歴史ある建物がたくさんあります。



岡城歴史まちづくりの会の副会長をしています。自然豊かな歴史ある城下町で、みなさまにお会いできることを楽しみにしております。

6 日田市(ひた)

日田市は、周囲を阿蘇・くじゅう山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、これらの山系から流れ出る豊富な水に恵まれた街です。夏の夜、三隈川には多くの屋形船が浮かび、皆さんを幻想的な世界に誘います。また、古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府直轄地・天領として西国筋郡代が置かれるなど、九州の政治・経済・文化の中心地として繁栄し、当時の歴史的な町並みや伝統文化が、今なお脈々と受け継がれ、“小京都”とも呼ばれています。



Key Person

桜木潔さん



九州の小京都と呼ばれるこの地で私は約30数年、英語塾をしています。仕事から外国人との交流も多く、いつも胸をときめかせています。中でもアメリカ人留学生とは毎夏、「日田夏の冒険」と呼ぶプログラムのなかで、地元の小中高生が参加する触れ合いにも顔をだし、我が町、日田(ひた)の魅力を大いに発信しています。同時に私たちもまた、つたない英語を使ってさらにアメリカ文化を吸収したいと思っています。ぜひ一度、我が町、日田で日本の伝統文化を体験して欲しいものです。"Welcome to Hita" - 私たちはこの地から熱いメッセージをとどけます。

7 中津市(なかつ)

中津市は、江戸時代の有名な武将 黒田官兵衛が、約400年前に開いた城下町で、現在大分県北部の商工業の中核都市として発展しています。また、一万円札の肖像である「福澤諭吉」(福澤は、ジョン万次郎とともに訪米したことがある)ゆかりのまちであり、中津城や福澤旧居などの文化財や歴史的建造物、名勝耶馬溪もあります。北部は瀬戸内海に面し、魚介類(特にハモが有名)が豊富にあり、山間部は、しいたけ・豊後牛・桃・梨・茶・木材の産地です。また、「聖地中津からあげ」のまちとして全国的に有名です。風光明媚な自然と山海の名物料理が皆様のお越しをお待ちしています。



Key Person

細川唯さん、武本清志さん



中津商工会議所は、中津市の商工業の振興と地域経済の活性化のため、事業活動しております。この度、ホームステイされる皆様と交流できることを楽しみにしております。

特集 第25回おおいた大会 (キーパーソン/地域分科会紹介)

8 宇佐市(うさ)

宇佐市にある国宝に指定された宇佐神宮は日本全国に約4万社ある八幡様の総本宮であり、今も各地から訪れる人が絶えません。他にも見応えのある多数の歴史文化遺産、観光地として多くの人々が訪れる安心院(あじむ)、石橋とゆずの産地院内(いんない)など、宇佐には数多くの魅力あふれる場所があります。宇佐の1500年の歴史と風土は、宇佐(USA)を訪れる皆様をやさしくそして温かくお迎えすることでしょう。



Key Person

西岡ヒサ子さん



外国の方々とホームステイや教育交流を隔年で交互に行っています。それ以外にも英会話学習や外国の方との交流事業をして、来年で20年になります。歴史と文化に育まれた街で皆さんとお会いし、新たな地域の方々と交流できることを心より楽しみにしています。

9 豊後高田市(ぶんごたかだ)

豊後高田市は、古い時代が息づく町です。千年の時を越えて受け継がれてきた美しい自然、六郷満山文化の歴史が織り成す豊かな風土、古い町並みや伝統行事など、古き良き時代を知り、触れることができる町です。特に、かつての活気を取り戻そうと再生された中心市街地をはじめ、国宝富貴寺や田染荘の田園風景など、既にそこにあるものを活かしながら、地域の方々の力によって生まれた新たなまちの魅力を体験することができるでしょう。



Key Person

野田洋二さん



「昭和の町」と呼ばれ、多くの観光客が集まるこの町に、皆さんをお迎えできることをたいへんうれしく思います。お待ちしております。

10 杵築市(きつき)

杵築市は、国東半島の南部に位置し、山間地域と、海岸地域を併せ持つ、自然風土に恵まれた地です。豊後牛や山香米、ハウスみかんなどの山の幸や、鱧やちりめん、牡蠣などの海の幸と、豊かな自然に育まれた産品も多彩です。市の中心部は城下町として栄え、その栄華を色濃くとどめています。杵築城を中心に、南北の高台に武家屋敷、その谷間に商人の町が挟まれたサンドイッチ型の城下町は、全国的にも類がありません。高台と谷はいくつもの石畳の坂道でつながれており、「坂道の城下町」としても知られています。町中では着物のレンタルや着付けも行っています。ぜひ着物姿で散策してみてください。



Key Person

土谷博信さん



一人娘は東京の大学に行っているの、妻と二人でホームセンターを経営しながらこの街に暮らしています。これまでに、アメリカ、ドイツ、ノルウェー、スロベニアからの学生を、ホームステイとして受け入れたことがあります。自宅は武家屋敷の通りがあるので、杵築らしさを満喫できることと思います。皆さんがいらっしゃるのを楽しみにお待ちしております。

11 別府市(べっふ)

別府市は、国内随一の温泉地です。大地から立ち上る湯けむりは別府を象徴する風景として、古くから住民、観光客に親しまれてきました。また、別府市は、人口当たりの留学生が全国一の市とされています。市内には、約80の国・地域から約3,000人の留学生が暮らしており、国際色豊かな環境の中で勉学に励み、また市民との交流を深めています。



Key Person

山本普詳さん

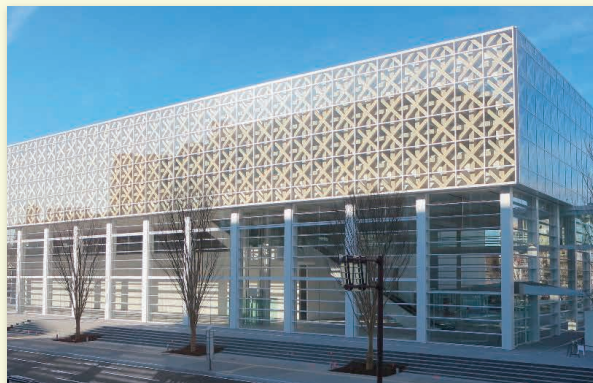


国際交流のボランティアグループの代表をしています。私たちは、別府市を訪れる外国人のための観光案内をはじめ、日本人のための英語教室の開催等様々な交流活動を通じて外国人と日本人との相互理解を深めています。温泉をはじめ豊かな自然に恵まれた国際色豊かな観光都市別府へのお越しをお待ちしています。

おおいた大会トピック

大分県立美術館 (OPAM) を見学します

大分市内に2015年4月24日、大分県立美術館 (OPAM) がオープンします。建物の設計担当は、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー賞を受賞した世界的に活躍する建築家 坂茂 (ばん しげる) 氏。シンプルな箱型の建物をガラスで覆い、3階外壁やペDESTリアンデッキは大分の竹工芸をイメージした印象的なデザインとなっています。草の根交流サミット期間中、「モダン百花繚乱『大分世界美術館』—大分が世界に出会う、世界が大分に驚く、『傑作名品200選』」と題した開館記念展が開催され、「モダン」をキーワードに、ダリ、ミロ、ターナー、マティス、モンドリアンとともに、田能村竹田、福田平八郎、高山辰雄、宇治山哲平など、大分出身のアーティストの精選された名品が展示されます。アメリカからの参加者には、7月12日のクロージング式典の直前に、ホストファミリーとともに、鑑賞していただく予定です。



4月24日に開館する大分県立美術館 (OPAM)

コロラド州グラネイダから「アマチ収容所保存会」の生徒達が参加します

今年の草の根交流サミットは第25回目の節目の大会。また、今年は戦後70周年を迎える年でもあります。CIEでは、この大会に「TOMODACHIイニシアチブ」からの助成を得て、第二次世界大戦中の日系人収容所「キャンプ・アマチ」の保存活動をしている高校生15名と引率者2名を招待することになりました。グラネイダはコロラド州の南東部に位置し、すぐ東側はカンザス州です。デンバーから車で5時間、コロラド・スプリングスから4時間ほどかかる距離。このグラネイダ唯一の12年制の学校、グラネイダ・スクールの先生と生徒達が90年代に「アマチ収容所保存会」を結成。今も保存活動を続けています。彼らの活動を知って、当時収容されていた方々が訪れることも多くなっているようです。

おおいた大会期間中、保存会の高校生には、キャンプ・アマチや日系人収容、その後の権利回復運動などについてプレゼンテーションを行ってもらう予定です。



学校近くの「アマチ収容所博物館」の前に立つ看板



収容所跡地に立つ説明板



収容所に入る時に許されたのはトランク2つ分の身の回り品だけ



復元された見張り塔



生徒達がつくった収容所の模型



収容所での生活を写した写真や風景画



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事



『クジラとアメリカ: アメリカ捕鯨全史』は、第23回L・バーン・ウォーターマン賞を受賞

した“Leviathan: the History of Whaling in America”の日本語訳です。ニューベッドフォード捕鯨博物館をはじめ全米各地に保管されている膨大な資料を駆使し、479頁(日本語版570頁)の大著になったとはいえ、鋭い焦点設定と充実した脚注によって、アメリカ捕鯨の興亡を見事にまとめています。

「アメリカの鯨捕り、 ジョン・マン」

さくらい はよと
櫻井 敬人

2014年秋、米国のエリック・ジェイ・ドリンが著したアメリカ捕鯨全史「Leviathan: the History of Whaling in America」の日本語訳「クジラとアメリカ: アメリカ捕鯨全史」が原書房から出版されました。その翻訳者の一人で、太地町歴史資料室学芸員およびニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員を務める櫻井敬人さんにご寄稿いただきました。

櫻井敬人 (さくらい はよと)

岡山県生まれ。C.W.ニコル著『勇魚』を読んで人とクジラの係わり合いの歴史に関心を持つ。名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期過程中途退。2000年からマサチューセッツ州ケンダル捕鯨博物館でインターン、翌年に同博物館がニューベッドフォード捕鯨博物館と合併すると同時にアシスタント・キュレーター。2004年に特別展 Pacific Encounters: Manjiro, Yankee Whaling, and the Opening of Japan (太平洋の出会い: 万次郎、アメリカ捕鯨、そして日本開国)を担当。2006年に和歌山県太地町に赴任し、ニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員を続けながら、現在は太地町歴史資料室学芸員。『クジラとアメリカ: アメリカ捕鯨全史』(原書房、2014年)を共訳。

ジョン・マンこと中濱万次郎は、日本を離れていたおよそ10年間のうち、アメリカの2隻の捕鯨船上で約5年間を、そして捕鯨産業の中心地であったマサチューセッツ州ニューベッドフォード周辺で約3年間を過ごしました。つまり日本を離れていた時間のほとんどをアメリカ捕鯨産業の中に身を置いていたのです。日本を離れていた間の経験が万次郎の人間形成に大きな影響を与えたというのであれば、彼をより良く知るためには、当時のアメリカ捕鯨産業を知ることが肝心であるといえるでしょう。

ジョン・マンがニューベッドフォード対岸の町フェアハイブンを暮らしていた頃、世界中の捕鯨船およそ900隻のうち、700隻超が米国東海岸から出港していました。なかでもニューベッドフォードからの船がおよそ300隻で群を抜いていました。ペリー提督が浦賀へやって来た1853年、アメリカの捕鯨船は世界中の海で8,000頭以上のクジラを捕え、5,700万リットルを上回る鯨油と大量の鯨髭製品を生産して、1,100万ドルもの売上を記録しています。綿織物産業などと並んでアメリカで最も重要な産業のひとつであった捕鯨は最盛期を迎え、莫大な富をもたらしていたのです。



フェアハイブンの港

豊かな捕鯨漁場を求めて、アメリカの捕鯨船はホーン岬を越えて太平洋に進出し、1819年にハワイに到達して、さらに西進していきました。そこで豊かなマッコウクジラ資源を発見すると、ハワイから日本沿岸に至るまでの広大な海域は「ジャパン・グランド」呼ばれるようになりました。この捕鯨漁場を目指して日本沿岸にまでやってきた船のなかにジョン・ハウランド号があったのです。足摺岬沖から漂流し、鳥島に流れ着いた万次郎と他の4名は、ウミガメの卵を採取するために鳥島に近づいた同船によって救出されました。

絶頂期にあったアメリカの捕鯨船は常に人手が不足しており、グリーン・ハンド、つまり海での経験に乏しい青二才がたいてい数名乗船していました。病気や怪我による下船だけでなく、厳しい仕事を嫌って

絶頂期にあったアメリカの捕鯨船は常に人手が不足しており、グリーン・ハンド、つまり海での経験に乏しい青二才がたいてい数名乗船していました。病気や怪我による下船だけでなく、厳しい仕事を嫌って

寄稿「アメリカの鯨捕り、ジョン・マン」

帰港地で逃亡するものが後を絶たず、船は寄港する先々で船員を雇い入れるので、船内の男たちの顔ぶれは多彩でした。ジョン・マンは決して珍客ではなかったのです。もちろん船長や航海士は白人が多く、非白人と同等に扱われた彼らが文句を言わなかったわけではありません。しかし当時、アメリカではまだ奴隷制度が合法であったことを考えれば、出自に関わらず、働きに応じて報酬が支払われたアメリカ捕鯨の世界は、ジョン・マンの目には公正な社会として映ったことでしょう。

ジョン・ハウランド号を降りて、船長の庇護のもとにフェアヘイブンで暮らす間も、ジョン・マンは優れた鯨捕りになるために努力を続けました。まずルイス・バートレットが経営する学校で航海術を学んだといわれています。また鯨油樽を作る技術を身につけています。樽職人の報酬は3等航海士のそれと並ぶほどでした。1846年5月、フランクリン号で2度目の捕鯨航海に出港したとき、ジョン・マンは3等航海士に次ぐスチュワードという身分を与えられています。グリーン・ハンドの上の平船員の、もうひとつ上の格です。船長の身近に控えて世話をすることに加えて、船内の食糧管理が主な仕事でした。フランクリン号は東進してアフリカ西岸を南下し、喜望峰、インド洋を越えて日本沿岸に至っています。

なお万次郎の長男、中濱東一郎が昭和11年(1936)に出版した『中濱万次郎傳』には、フランクリン号の船長が発病してマニラで下船した後、船員同士で投票した結果、ジョン・マンが「副船長」に選ばれたという話が出てきます。しかしそれを裏付ける資料は発見されていませんし、そもそも副船長という役職はアメリカの捕鯨船には存在しません。ただし捕鯨船に搭載されていた捕鯨ボート内で第2番目の地位にジョン・マンが押し上げられたとする解釈があります。捕鯨船には3艘から6艘の、6人乗りの捕鯨ボートが載っています。クジラを追うために海面にボートを降ろした後、船尾で舵を取り、指揮するのは航海士の役目です。

それに次ぐ役職が船首に立つ鋸打ちで、さらにオールを漕ぐ4名の水夫が加わります。船長がマニラで下船した後、1等航海士が船長になり、以下順繰りに昇格して、ある1艘のボートのなかでジョン・マンが水夫から鋸打ちに取り立てられたと考えることに無理はありません。

アメリカ捕鯨では、不漁のまま帰港すれば船長は欠損の責めを負わされるばかりか、不運もしくは無能の船長として疎んじられました。したがって満船になるまで航海は続けられ、通常3年間を超えるようになっていました。捕鯨船の暮らしに倦んだ男たちがいつも考えていたのは、クジラを獲りまくって一日も早く母港へ帰ることでした。言うまでもなく捕鯨の成否は鋸打ちの双肩にかかっています。アメリカの捕鯨船上では、出自はともかく、鯨捕りとしての責任を良く果たすかどうかが重要でしたから、優れた鋸打ちの技術を持ち、仲間が信頼する男でなかったとすれば、ジョン・マンがその重職に就くことはなかったでしょう。



ニューベッドフォード捕鯨博物館

アメリカの捕鯨帆船で唯一現存するのは、1841年にニューベッドフォードで建造されたチャールズ・W・モーガン号です。2014年夏、大掛かりな修復を終えました。所蔵するミスティック・シーポートのビートー理事長が、進水式で興味深い指摘をなさいました。モーガン号は、「自由(freedom)」、「自立(self-reliance)」、「勇気(courage)」、そして「個人の責任(personal responsibility)」という、アメリカ人が最も重視する価値観を体現しているということです。つまり世界中からやってきた人々が乗り組んでいたアメリカの捕鯨船は、異なる生き立ちを持つ移民たちによって形作られたアメリカという国を象徴しているということでしょう。我々が中濱万次郎に惹かれるのは、漂流と無人島を経たアメリカ捕鯨の生活のなかで、自らを頼りにして活路を開いていったジョン・マンの生き様が、多様な価値観の渦の中で右往左往する現代人を勇気付けるからではないでしょうか。

ジョン・マンが学んだ
ルイス・バートレット・スクール

唯一現存する捕鯨帆船チャールズ・W・モーガン号

事務局だより

CIE-USの理事長にボイコ氏が就任

CIEの米国側のカウンターパート団体であるCIE-USの理事長が交代しました。2008年12月からCIE-USの理事長を6年間務めたリチャード・ウッド氏の引退に伴い、ノムラ・パートナーズ・ファンズの現理事で、ハートフォード生命インターナショナルの元会長兼CEOのグレゴリー・ボイコ氏が新理事長に就任しました。ボイコ氏は、ハートフォード生命時代に100回以上も来日するほど親日家であるとともに、日本のビジネス界にも精通しています。在住するコネチカット州シムズベリーでは日本名誉総領事も務めています。養蜂、フライフィッシング、ハンティング、スカッシュ、野球と趣味も多彩です。



土佐史談、「中浜万次郎」を特集

土佐史談会は、土佐の歴史・地理・考古・民族についての調査・研究・発表を行い、高知県民の文化の向上を図ることを目的に活動している高知の民間団体です。会の発足は明治45年で、約100年の歴史をもっています。定期的に機関誌「土佐史談」を発行しており、2014年12月発行の257号では万次郎を特集しています。執筆者には、万次郎の子孫や研究者20人が名を連ね、その中にはCIEの北代淳二評議員、平野貞夫評議員も含まれています。万次郎ファンには欠かせない一冊です。ご希望の方は、土佐史談会のe-mail (tosashidankai1917@theia.ocn.ne.jp) または電話088-854-5566までお問い合わせください。



平成26年度寄附協賛企業一覧 (50音順)



曙ブレーキ工業株式会社



イオン株式会社



鹿島建設株式会社



キッコーマン株式会社



株式会社ジェイテクト



全日本空輸株式会社



ダイキン工業株式会社



株式会社大庄



株式会社デンソー



東海旅客鉄道株式会社



豊田合成株式会社



トヨタ自動車株式会社



株式会社豊田自動織機



豊田通商株式会社



株式会社永谷園



株式会社ニフコ



日本郵船株式会社



日野自動車株式会社



富士通株式会社



ブラザー工業株式会社



三井住友海上火災保険株式会社



三菱商事株式会社



三菱食品株式会社



明治安田生命保険相互会社

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／アサヒグループホールディングス株式会社／東京海上日動火災保険株式会社
トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／パナソニック株式会社／矢崎総業株式会社